

執筆者紹介

あさくら たけお
朝倉 健男 本学経済学部助教

つねきけん たろう
恒木健太郎 本学経済学部准教授

〈編集後記〉

2021年度の月報は、大矢根所長・小池事務局長の新体制の下、月報700号の記念特集号を発行することができました。年度の締めくくりとなる本号には、中央銀行の金融政策と貨幣・信用理論史の論文が投稿されました。僭越ながら、それぞれについて簡単に紹介します。

朝倉の論考は、日本銀行が実施する非伝統的金融政策の理論モデルとなっているKrugmanの「流動性のわな」理論を批判的に検討した後、非伝統的金融政策の手法である政策金利のフォワード・ガイダンスと独立的インフレ期待形成について分析をおこないました。これらの手法を混同してきたアカデミアに対して、朝倉はメカニズムとねらいが異なる別の政策であるという立場に立って考察しています。

恒木の論考は、古川頭が2021年に上梓した『貨幣論の革新者たち—貨幣と信用の理論と歴史』(ナカニシヤ出版)の書評論文となっています。古川が分析した7名の貨幣論を紹介した上で、ヘンリー・ダニング・マクラウドに注目し、ドイツ経済思想史との関係から分析をおこないました。「スコットランド的」な動態的信用理論の系譜の先駆者としてマクラウドを位置づけ、シュンペーター、ハーン、ゾンバルトへと受け継がれているという奥山誠の研究を踏まえ、マクラウドがドイツ経済思想史へ与えた影響について研究する必要性を説いています。

2022年2月、ロシアがウクライナに軍事侵攻をし、3月4日には、ウクライナ最大のザポリージャ原子力発電所を攻撃したことで、世界を震撼させました。これに対し、国際社会はロシアへの経済制裁を強めています。この制裁は世界経済にも少なからず影響を及ぼすものです。人命が最優先であることは言うまでもないが、今回の侵攻がもたらす世界経済の影響についても注視する必要があります。

(N.S.)

2022年3月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 大矢根 淳

製作 株式会社グラフィカ・ウエマツ

新宿区下落合4-21-19 目白LKビル3F 電話 (03)6915-3835
